

家族から「よかった」と思ってもらえる、修羅場にしない 経験と根拠で語りかける 看取りケアと家族支援



最期の迎え方を積極的に考える風潮となっても、患者や家族のイメージする最期と現実とのギャップは今なお大きなものがあり、医療者との摩擦も尽きません。緩和医療の知識を得て、根拠を持って説明できる力と、患者さんや家族が安心し、納得する伝え方の経験知、その双方が必要です。西日本で有数の在宅看取り(年間150例以上)を実施する講師が、悔いの残らない看取りを組み立てるための知識と技術を伝えます。

山岡憲夫氏 医療法人カーサミア やまおか在宅クリニック
理事長・院長／医学博士

1978年長崎大学医学部卒業後、大分県立病院胸部外科部長、大分ゆふみ病院(独立型ホスピス)院長等を経て、2009年から現職。“大分県全体をホスピスに!”を合い言葉に、開院後7年間で858名の方を在宅で看取る。大分大学医学部臨床教授、日本死の臨床研究会世話人、日本緩和医療学会代議員ほか。

誤解を解き、不安を和らげ、 意思決定を支える!

プログラム

- 1. 在宅での看取りの組み立てに向けて**
 - 1) 退院調整時に確認が必要なこと
 - 2) 在宅での疼痛緩和・症状緩和
 - 3) 独居・日中独居・老老世帯
 - 4) 急性増悪リスクのアセスメントと再入院への備え
- 2. 医師は何を根拠に予後予測をしているのか**
 - 1) 中期的な予想
 - 2) 短期的・死亡直前の予想
 - 3) 非がんの場合
- 3. 本人と家族の選択をどう支えるか**
 - 1) 積極的治療の継続
 - 2) 根拠の乏しい「医療」に賭けている場合
 - 3) 入院か在宅療養かの選択
 - 4) 経口摂取・経管栄養・輸液をめぐる選択
 - 5) 鎮静をめぐる選択
- 4. 本人も辛い、家族に不満を残さない
看取りのために**
 - 1) 「残された時間」を伝える
 - 2) 「難しくなる看取り」を見抜き、少しだけ先回りする
 - 3) 修羅場を防ぐ、一歩手前の言葉かけ
 - 4) 不満、不信、思いこみをもたれてしまったら
 - 5) 「家族の希望」が本人を苦しめてしまう場合

福岡	18年 4月22日(日) 日総研 研修室(第7岡部ビル)
東京	18年 5月13日(日) 日総研 研修室(廣瀬お茶の水ビル)
大阪	18年 9月8日(土) 田村駒ビル

[講義時間] いずれも10:00~16:00

参加料 一般 18,500円 会員 15,500円
税 込
※会員は日総研会員制24専門雑誌の年きめ購読者です。
※昼食代は含まれません。昼食は各自でお持ちください。
※ご参加いただくには事前のお申し込みが必要です。※最少催行人数14人。

日総研 14637 **検索**

ホームページ **リニューアル** 今人気のセミナーランキング&話題の特集 **日総研** **検索**

がん患者ケア、早期からの緩和ケアを推進する!

エンド・オブ・ライフケア

End-of-Life Care

3-4月号 特集

- 非がん疾患患者への緩和医療推進への課題と取り組み
- 慢性心不全患者への緩和ケアと意思決定支援
- 非がん疾患の緩和ケアにおける家族支援 ほか

会員制 隔月刊誌 B5判 112頁 入会金 3,000円 年間購読料 18,514円(共に税込)

日総研 エンドオブライフケア **検索**

▶詳細はホームページで www.nissoken.com ●お申し込み受付後、通常1週間以内に参加証をお送りしています。参加証が届かない場合にはお問い合わせください。

FAX申込書	▼受取確認者氏名を必ずフルネームでお書きください ふりがな _____ 氏名 (受取確認者) _____ 生年月日 西暦 19__年__月__日 ▼日総研の会員制・専門雑誌をご購読の方はお客様コードをご記入ください お客様コード _____ 役職・部署 _____ 勤務先名 _____ ご連絡をお送りします。メールアドレス _____	送付住所 TEL() _____ 〒 _____ 施設宛 請求書 必要 ・ 不要 送付先 自宅 ・ 勤務先
経験と根拠で語りかける 看取りケアと家族支援 [14637] ↓参加地区に✓印を [1] <input type="checkbox"/> 福岡 4/22 [2] <input type="checkbox"/> 東京 5/13 [3] <input type="checkbox"/> 大阪 9/8		